



セントラルスポーツでの至福な時間

錫谷 和子さん（福島店）

中学生の息子と同じ場所で同じ時に同じことをする。こんな体験は、子供が中学生にもなってしまうとなかなか出来ないことである。でもこの至福な時間と場所を、私はなんと、セントラルスポーツで手に入れている。

福島市にセントラルスポーツが出来て十年。私は建物が建設されている時から、その前を通りながら出来上がることを楽しみにし、出来上がると同時に入会した。息子は他のスイミングスクールに通っていたが、「ママと同じ所がいい」のひと言で、私と息子の素敵な時間ははじまり、今に至っている。

息子はスイミングスクールでコーチに教えてもらいながら、その間、私は横の大人のためのコースで泳いだり水中ウォーキングをしている。もうずっと続いている至福な時間だ。その息子も今や中三になり受験生となった。でもずっとセントラルのスイミングに通って

いる。息子いわく楽しくて仕方ないそうだ。
 学校では部活で卓球もやり、あとずっと続け
 ている柔道も好きで大会にも出ている。そし
 て勉強も頑張っている。もう他の人から見た
 ら充分すぎる程なのに、息子はずっとセント
 ラルのスイミングスクールに通い、水泳を楽
 しんでいる。けっして「やめる」と言わない
 息子を、私は心の中で「よし、よし。」と思
 いながら、息子はスクール、その横で私は大
 人のコースでと最高に幸せな時をすごしてい
 る。
 セントラルに通う日は、部活を早く切りあ
 げ迎えに行った車でセントラルに行く。普段
 電車通学だから、この時間もまた私にとって
 は楽しい。幸いにして伸び伸び素直に育って
 くれたが、車の中で、今日のセントラルの話
 で盛り上がることもある。
 赤帽子からどんどんあがり、今は黒帽子。
 なかなか上に行けなくて本人ももどかしかつ
 たこともあっただろうが、私は同じプールで

同じ時に泳ぎながら、水泳を通して息子の成長を応援してきた。私が泳ぎながら、水中メガネをしながらも、横目で息子を見ていることをコーチも知っていて、さすがコーチとびつくりしたこともあった。

たくさんのコーチに指導して頂き、今はイルカのように泳ぎながら、年下の子ども達とスイミングスクールを楽しんでいる。コーチから息子がいることで、息子を慕っている小学生もいるよと聞くと嬉しくなってしまう。

なかなか黒帽子に進級できずにいた息子が進級できた時、顔をクシヤクシヤにして両手で大きな丸を作ってサインを送ってくれ、それをコースの片すみでながめ、あわてて顔水中につっこみ、涙をぬぐった私の思い出も今ではなつかしい。これもみんなセントラルのお陰と思っている。ベビースイミングもとても楽しかったけど、こうやって親子一緒にセントラルに通い続け、同じ時間、同じ場所で各々の目標のもと水泳に励む、本当にすば

らしいと思う。どんどん大きくなり、中三で身長が180センチメートルになった息子をセントラルのスタッフの方も「大きくなりましたね」と声をかけて下さりコーチの方々も「とびこみ、最高にかっこいいね」とほめて下さる。私のセントラル仲間のご婦人方にも「将来楽しみね」とアイドル並みに優しくして頂き息子は幸せ者だ。

セントラルスポーツは息子にとって水泳以外にも学ぶべきことが多い所だと思っている。中三で学童コースも終わってしまふ息子との、至福の時間を私は楽しみながら今日も息子のレッスンの横で泳いでいる。

本当に息子の成長を見ながら共にセントラルに通えて良かった。

息子の目標は、地元の大学に入りセントラルのお兄さんとして何かアルバイトさせて頂くこと。子ども達、通ってくる大人の方達に慕われ、素敵なお顔をセントラルスポーツに幸せを運んでくる青年になって欲しいと願っ

